

下野市の国内交流

国内交流協会の始まりは、栃木県下都賀郡旧国分寺町と香川県綾歌郡旧国分寺町双方の発展と将来に渡る友好関係を築くことを目的に、平成22年7月に「下野市国内交流協会」(民間団体)が発足しました。その後、様々な交流事業を協会が主体となって実施し発展させています。

I 香川県高松市との交流

平成13年4月22日「第2回全国国分寺サミット」が開催された際に、全国に国分寺を冠にした町が、二町だけであったことから交流が始まり、文化・教育・スポーツの分野を中心に交流を行ってきました。平成17年2月4日には『親善友好都市』を提携しましたが、両町ともに平成18年1月10日に合併し高松市、下野市となりました。

その後、平成25年6月29日、高松市・下野市のつながりの軸である国分寺跡等の貴重な歴史遺産の継承や活用などを通じ、さらなる交流人口の増加と地域の活性化を目指し、『歴史文化交流協定』を、同時に地震などの大規模災害等で被害を受けた場合に備え、市の応急対策や復旧活動を迅速かつ円滑に遂行するため、『災害時

における相互支援協定』も締結しました。平成28年3月26日の市制施行10周年記念式典では、讃岐国分寺太鼓保存会を招待し、新庁舎にて、迫力の太鼓演奏を披露していただきました。

また、毎年市内小学6年生を対象に参加者を募り、夏休み期間中に約20名の訪問団を結成し、高松市を訪問しています。訪問した児童はみな目を輝かせ、普段では体験できない、地引網体験や讃岐国分寺跡について学びます。また、高松市の児童の受け入れも行っており、訪問した児童間でも、活発な交流を生んでおり、次世代を担う人材育成に一役買っているようです。



讃岐国分寺跡について説明

讃岐国分寺太鼓 (H28.3.26)

見たことのない魚を地域の方々に詳しく教えてもらいました。

初めてやって楽しかった。たくさんの魚が入っていてうれしかった。

タコ・イワシ・タイがとれてびっくり。お昼にとってもおいしくいただきました。

地引網を体験した児童の声



つながッテルな!
条例11条

(子どもの参画)

市民、議会及び市は、子どもを下野市の未来を担う地域の宝として育てるとともに、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重するものとする。